

# こども「いきいき」生き物調査 2014

横浜市全域  
一斉調査

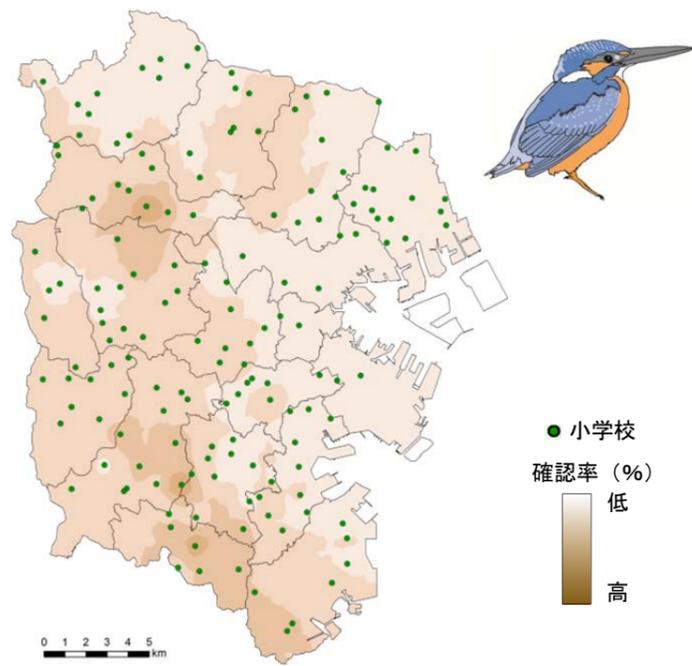
## 調査結果について 概要版



～小学生12,000人超が市内全域生き物調査に参加しました！～

横浜市環境科学研究所では、平成26年の夏休みに、市内の市立小学校342校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました（本調査は継続2年目です）。

158校、12,349名の児童から回答があり、清流にすむ美しい鳥、カワセミが市の西部で多く確認されていること、過年度調査で人目につきやすいところに出てくるようになった可能性が指摘されたタヌキが市内広域で確認されていることなど、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。



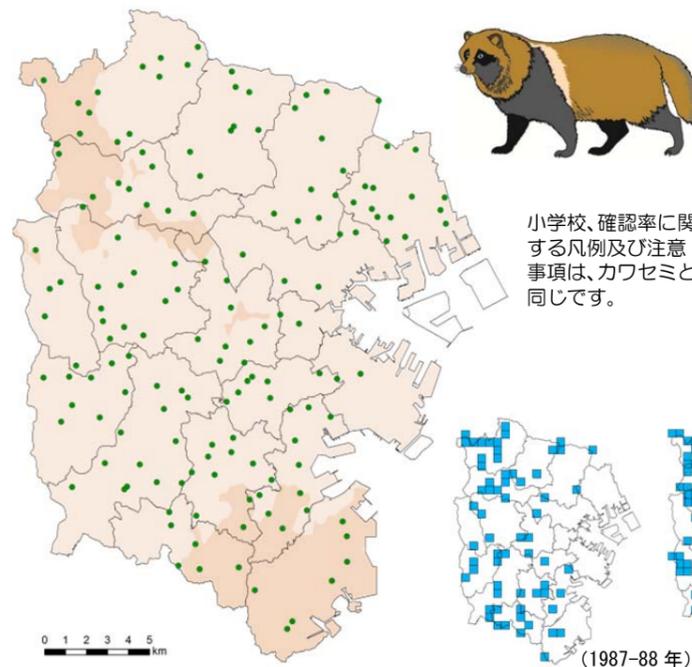
### 【カワセミ】

学校ごとの確認率は1%から69%でした。確認率の高い地域は、緑の10大拠点\*2のうち、特に「三保・新治」、「舞岡・野庭」や「円海山周辺」などと一致するようで、河川の源・上流域や池で見られることが多いようです。

カワセミは近年、都市で増加傾向にあると言われています。清流にすむ美しい鳥として有名ですが、過去の調査時は見かける頻度が低く、調査対象とはなりませんでした。今回、地域差はあるものの、市全体で5人に1人以上が「確認した」と回答しており、今後の変化が注目されます。

※2 緑の10大拠点  
樹林地や農地等の自然的環境が連なる横浜市郊外部の緑地。「緑の七大拠点」および3つの「河川沿いのまとまりのある農地・樹林地の拠点」の総称。

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部の心頭などは解析対象外としました。



### 【タヌキ】

学校ごとの確認率は0%から49%でした。過年度の調査では、1987-88年より1991年の方が確認されたメッシュが大幅に増加しており、タヌキが人目につきやすいところに出てくるようになった可能性が指摘されています。現在は市内広域に生息しているものと思われていますが、やはり確認率が高いのは、樹林地、丘陵地のような地域です。

小学校、確認率に関する凡例及び注意事項は、カワセミと同じです。

■ 生息確認

### <調査に参加いただいた小学校>

- 【鶴見区】 潮田・東台・旭・生麦・豊岡・入船・平安・岸谷・上末吉・寺尾・馬場・獅子ヶ谷・上寺尾・新鶴見 【神奈川区】 青木・三ツ沢・西寺尾・大口台・羽沢 【西区】 平沼・浅間台 【中区】 北方・元街・立野 【南区】 石川・大岡・南吉田・井土ヶ谷・永田・六つ川・永田台・六つ川西 【港南区】 永野・日下・南台・下永谷・日限山・港南台第一・日野南・下野庭・相武山・丸山台 【保土ヶ谷区】 帷子・桜台・上菅田・初音が丘・上星川・坂本・藤塚・瀬戸ヶ谷・権太坂 【旭区】 希望ヶ丘・鶴ヶ峰・本宿・万騎が原・東希望が丘・さちが丘・笹野台・中沢・川井・不動丸・善部・今宿南・若葉台
  - 【磯子区】 杉田・根岸・滝頭・梅林・岡村・洋光台第一・洋光台第二・洋光台第三・森東・山王台・さわの里 【金沢区】 六浦・大道・西柴・釜利谷西・並木第一・並木第四・並木中央 【港北区】 高田・城郷・綱島・菊名・篠原・下田・篠原西・師岡・矢上・新吉田第二・大豆戸 【緑区】 山下・長津田・新治・三保・長津田第二・上山・緑・森の台・山下みどり台・霧が丘 【青葉区】 田奈・山内・奈良・つつじが丘・元石川・みたけ台・藤が丘・あざみ野第一・鴨志田第一・あざみ野第二・恩田・新石川・桂・黒須田 【都筑区】 勝田・すみれが丘・茅ヶ崎・都田西・川和東・南山田・茅ヶ崎東・牛久保 【戸塚区】 戸塚・汲沢・川上北・南戸塚・深谷台・名瀬・鳥が丘・南舞岡・品濃・秋葉・舞岡・倉田・下郷 【栄区】 本郷・桂台・本郷台・小菅ヶ谷・公田・庄戸 【泉区】 中和田・岡津・東中田・新橋・和泉・いずみ野・緑園東・緑園西・飯田北いちよう 【瀬谷区】 瀬谷・上瀬谷・瀬谷第二・相沢・阿久和
- (全158校)

#### ツバメの巣

今年使われた巣を見つけた時だけ教えてね。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### つくし

春ごろに日なたにはえていたかな？ 食べられる植物だよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### カワセミ

川や池に飛びこんで魚をつかまえるよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### ノコギリクワガタ

オスのキバ(大あご)にはギザギザがいっぱい。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### アマガエル

目の後ろは黒いよ。

3cmくらいの小さなカエル。体は灰色や茶色のときもあるよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### クマゼミ(の鳴き声)

シャアシャアシャアと大きな声で鳴くよ。日本で一番大きいよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### アライグマ

しっぽは「しましま」。

手先が器用で魚もつかまえるよ。夜に行動することが多いよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### タヌキ

しっぽに「しましま」はないよ。

横浜にも、いっぱいいるはず。夜に行動することが多いよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### ハクビシン

しっぽは長め。

果物大好きで、木のぼりが上手。夜に行動することが多いよ。

秋	冬	春	夏
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図 調査対象とした生き物

# こども「いきいき」生き物調査 2014

## 教えて！あなたが見つけた生き物たち

### 1 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めていただくとともに、生物多様性保全に資する基礎データ（市内広域における生物情報）を取得することを目的に実施しました。

### 2 調査方法

市内にある市立小学校342校の5年生 31,615名（平成26年4月1日現在）及び参加希望のあった他の学年に調査票を配布し、過去1年間（2013年9月1日～2014年8月31日）に、「家や学校の近く」（＝学区内）で見つたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。

### 3 調査対象とした生き物

調査対象としたのは、次の9種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を指標すると思われるもの、外来種や減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ツバメの巣
- つくし
- カワセミ
- ノコギリクワガタ
- アマガエル
- クマゼミ（の鳴き声）
- アライグマ
- タヌキ
- ハクビシン

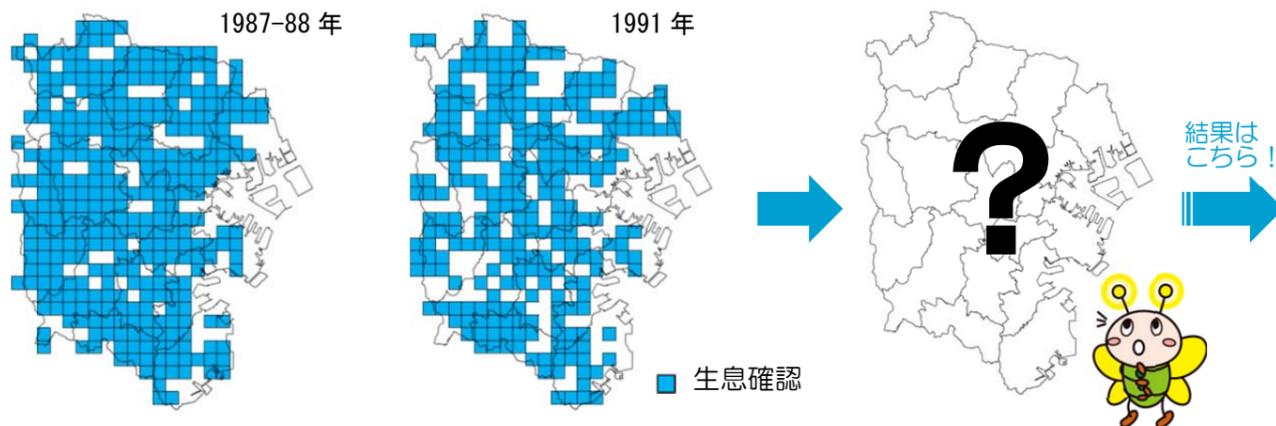
### 4 調査結果

学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとにGISソフトを用いて市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました（3ページ及び4ページ）\*1。

いくつかの生き物については、1980～90年代に3回、小中学生らを対象としたアンケートによる分布調査が行われています。対象とする生き物が確認できたか否かを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました（下図及び4ページ）。

\*1 作図にあたっては、1校あたりの回答数が10名以上の154校のデータを使用しました。

（1987-88、1991年の調査結果：ノコギリクワガタ）



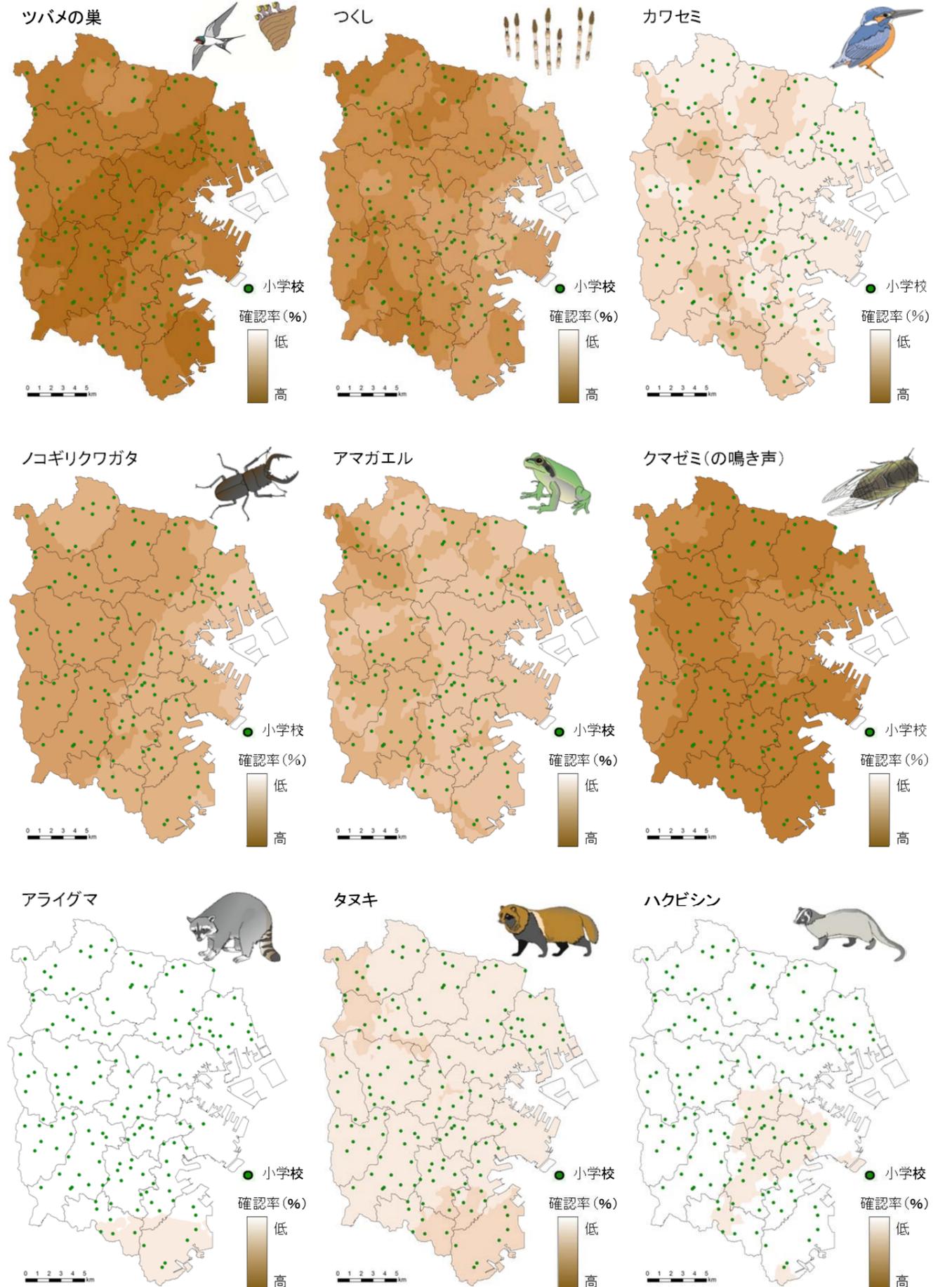
### 5 結果の活用と今後の計画について

結果の詳細は、横浜市環境科学研究所 Web ページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html>

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年度以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

### こども「いきいき」生き物調査 2014 調査結果



注)色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。